【警報発令中】手足口病が流行しています。

【概況】

2019 年第 29 週(7 月 15 日～21 日)の定点※1 あたりの手足口病の患者報告数は、市全体で 16.60 となり、前週の 18.01 から減少しましたが、依然として過去に流行した年の同時期の報告数を大きく上回っています。

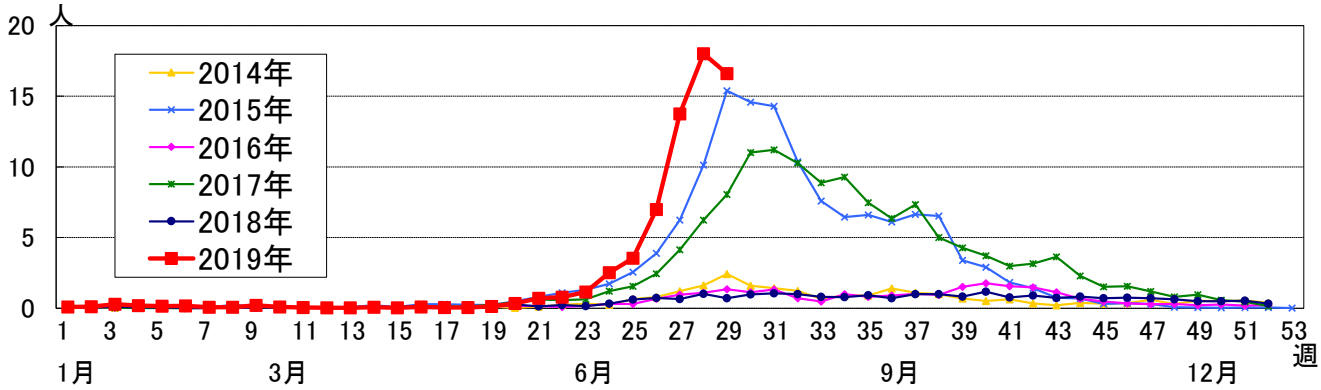
直近 5 週間の報告患者は、5 歳以下の小児が全体の 94.1%を占めており、特に 1 歳(36.9%)が最も多く、次いで 2 歳(21.4%)となっていました。

2019 年はコクサッキーウイルス A6 型(CA6)が全国的に多く検出されており※2、市内でも手足口病疑いの患者から分離・検出されたウイルスは CA6 が多くを占めています。CA6 による手足口病では、従来の手足口病より水疱が大きいことや、数週間後に爪がはがれる症例(爪甲脱落症)が報告されています※3。

ピークを過ぎた後も暫く流行は続くと予想され、注意が必要です。

※1 定点とは、毎週患者発生状況を報告していただいている医療機関(手足口病は小児科定点 94 か所から報告されています)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
※2 週別 病原体別 手足口病由来ウイルス 2018 & 2019 年(国立感染症研究所)
都道府県別 病原体別 手足口病由来ウイルス 2019 年(国立感染症研究所)
※3 手足口病とは(国立感染症研究所)　手足口病に関する Q&A(厚生労働省)

1 市内流行状況:第 20 週にて定点あたり 0.35 と増加を開始し、第 26 週にて 6.98 で流行警報発令基準値(5.00)を上回り、第 27 週は 13.74、第 28 週は 18.01、第 29 週は 16.60 となっています。今年は過去に流行した 2017 年、2015 年の同時期を上回って推移しています。



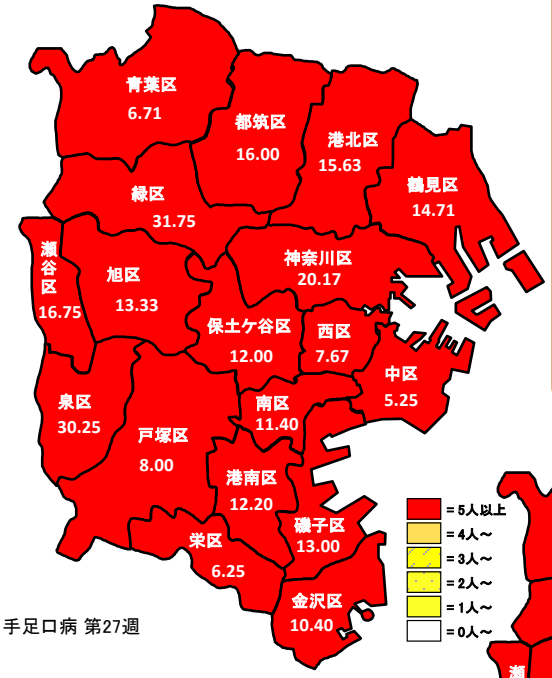
手足口病は、通常 3～6 日の潜伏期をおいて、手、足や口腔内(ときに肘、膝やおしりなどにも)に痛みを伴う水疱が出現します。熱は多くが 38℃以下です。1 週間程度で自然に治りますが、ごくまれに髄膜炎・脳炎などの重い合併症が起こる場合もあります。元気がない、頭痛・嘔吐を伴う、高熱を伴うなどといった症状が見られた場合は、速やかな受診が必要です。感染経路は飛沫感染、接触感染、経口(糞口)感染であり、乳幼児における感染予防は、手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

2 区別流行状況：第 27 週からすべての区で警報レベル（流行警報発令基準値 5.00）となっています。

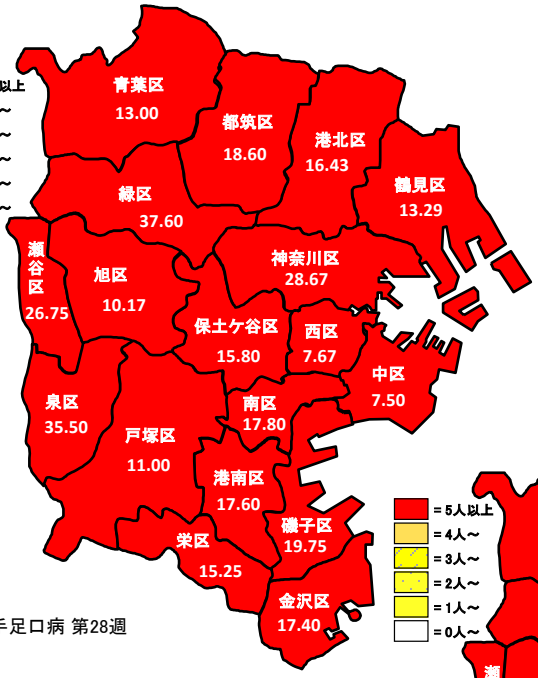
2015 年と 2017 年に流行した時の警報発令とピークの時期と、その週の報告数は以下のとおりです。

	警報発令	ピーク
2015 年	第 27 週（6/29～） ～第 44 週（9/28～）	第 29 週（7/13～） 定点あたり 15.39
2017 年	第 28 週（7/10～） ～第 40 週（10/30～）	第 31 週（7/31～） 定点あたり 11.20

今年は 2015 年、2017 年の流行より高い値で推移しています。



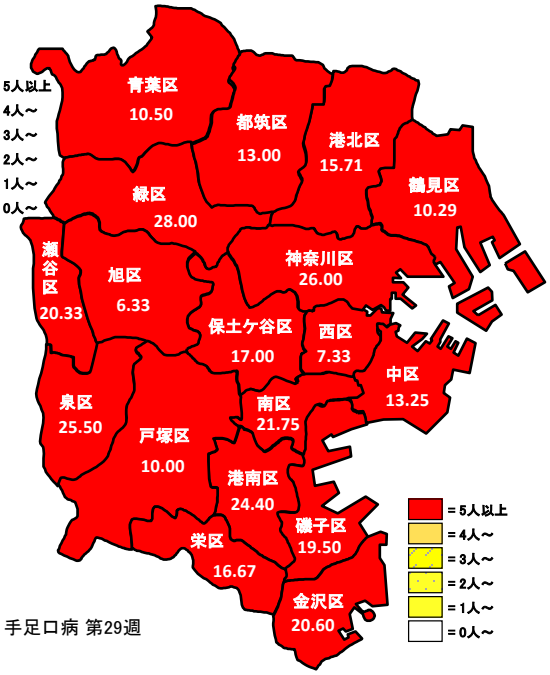
手足口病 第27週



手足口病 第28週

※流行警報は、市内の報告数が 2.00 を下回ると解除されます。

※例年、ピークを過ぎた後も暫く流行は続きます。



手足口病 第29週

手足口病は、治った後もウイルスが排泄され、また、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合もあると考えられることから、日頃からのしっかりとした手洗いが大切です。

【お問い合わせ先】横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463